

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：土と愛子供の家保育所	種別：認可保育所
代表者氏名：村木 みつえ	定員（利用人数）：70名
所在地：〒241-0002 横浜市旭区上白根 2-9-18	
TEL：045-953-2779	
ホームページ： http://tutitoai.com	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 1974年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 土と愛		
職員数	常勤職員：16名	非常勤職員：7名
専門職員	調理師 1名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	保育室3室、厨房1室、事務室1室	●1階は、0・1・2歳児の保育室と調理室、食堂、 2階は3・4・5歳児保育室と事務室 ●園庭は2 段に分かれていて、上下の園庭は滑り台でつなが っている

③理念・基本方針

保育理念

「障害を持つ子どもも、持たない子どもも、共に助け合い育つ」

障害があるなしに関わらず、子どもたち一人一人がぶつかり合い、育ち合う。そうしてお互いが成長する中で、差別や偏見を持たない一人の人間として大きくなってほしいと思っています。

保育目標

自主的・意欲的に生活し、自分を出出できる子どもになろうとする。協力し合うことを喜びにできる子どもになろうとする

④施設・事業所の特徴的な取組

- 縦割り保育：1・2歳児、3・4・5歳児の縦割り保育。
- 5歳児の取り組み：1年の後半には「寝ない子」の時間を作り、太鼓、和紙すき、版画などの卒園に向けての取り組みを行う。自分たちで掃除、給食、当番、保育活動全般を行う。卒園旅行として保育園に一泊する。
- 食育：味噌づくり 保育園で食べている味噌は2月に大豆を煮て麴を塩切りして、煮た大豆を子どもたちと足でつぶす。それを麴と混ぜて、甕に投げ入れて発酵させて作っている。
- 食器：物を大切に使ってほしいという思いと安全面から、プラ製の食器は使用せず、漆器の椀や陶器の食器を使用している。
- 遊び：コマ回し 正月が明けたらコマを回して遊ぶ。1月の末のコマ回し大会を目指し、コマに紐を巻くこと、コマを投げて回すことの経験をする。
- 養育支援：養育支援の必要な子どもに対して、保育園としてできることは何かを検討し、支援する。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年4月18日（契約日）～2020年3月31日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（平成26年度）

⑥総評

◆特に評価の高い点

1、子どもの主体性を尊重した保育

「職員の思い」に「まず子どもの集まりがあって子ども自身がその中で生活していった欲しい」と記載し、子どもが自分で考え、行動することを大切にしています。乳児は保育士との関わりの中、少しずつ生活習慣を身に付けられるようにしています。保育士に、自分でやりたいという気持ちを大切に見守られ、子どもたちは少しずつできることを増やしていき、5歳児になると自発的に食べ終わった食器を1階に下げたり、ほうきで掃いたり、雑巾掛けをしたりしています。遊びの場面でも、保育士の見守りのもと、子どもたちは自由に好きな遊びを選び、友達と一緒に遊びを広げています。けんかなどの場面でもそばで見守り、子どもが自分の気持ちを整理し相手の気持ちを思いやることができるように支援しています。たくさんの遊びを重ねて集団が育った5歳児は、和紙すきや太鼓などの活動に友達と一緒に集中して取り組んでいます。また、食育の活動も盛んで、全園児で味噌造りをするなど楽しい食のイベントがたくさんあります。

2、障がいなど様々な課題がある子どもを積極的に受け入れています

理念に基づき、園は障がいなど様々な課題がある子どもを積極的に受け入れ、全ての子どもたちが共に育ち合えるように支援しています。毎週のように行われる職員会議で、子どもの課題や配慮すべきことなどを全職員で共有し、職員皆で見守る体制を築いています。一緒に生活を楽しむことを基本にしていますが、個別対応の職員を配置し個々にあわせて対応したり、活動内容を調整したりし、子どもが無理なく活動できるようにしています。

保育士はどの子どもにも分け隔てなく接していて、子どもたちも障がいのある子どもをクラスの仲間として認めてお互いの存在を自然に受け入れ、共に成長しています。

◆改善を求められる点

1、計画やマニュアルなどの文書化への取り組み

毎週の職員会議では、情報共有だけでなく、指導計画の振り返り、子どもや保護者の課題への対応策、ヒヤリハット事例の検証、標準的な手順の確認等、全ての事項が検討され決定されています。ただし、決定事項をマニュアルの作成や見直しに生かしたり、指導計画の中に反映したり、保健計画などにまとめたりという文書化への取り組みが不十分になっています。そのため、マニュアルや手順書等の文書を用いての職員間での意識のすり合わせや実践後の検証などを行う仕組みがありません。自らの取り組みを文書化することは、取り組みの標準化と共有化だけでなく、組織としての振り返りを深めて職員の意識を高め、透明性を図る意味でも大切です。今後の取り組みが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

家族アンケートの評価が、総合満足度が97.6%だった事について、安堵すると同時に、アンケートひとつひとつについて、「不満」、「どちらかといえば不満」と答えて下さった内容を吟味していく必要があると思います。

主な保育の柱である「遊び」「生活」「快適さ、安全対策」については、満足していると答えてもらっている事。職員の対応についても、「お子さんが大切にされているか」「保育園生活を楽しんでいるか」「アレルギーや障害のあるお子さんへの配慮」「話しやすい雰囲気、態度であるかどうか」などの満足度が90%を超えていること。保育園としては、嬉しい結果ですが、自由記述欄としての保護者からの要望や意見につきましては、それらを真摯に受け止めひとつひとつ、丁寧に応えていきたいと思っています。

職員の自己評価については、年度末に、取りまとめ公表しています。職員の資質向上については、職員の定着率が良いことが、子ども、保護者との信頼関係を維持し、養育支援の相談にも応じることができ、資質向上に繋がっていると思います。

組織運営においては、中・長期的な計画の検討と分析のまとめ見直しを進めていくつもりです。運営管理においては、職員がより長く安心して勤められるように業務内容、マニュアルの文書化に努めたいと思います。

今回、ご家族の皆さんに、この保育園の特色や主張が受け入れられ、理解されているということが認識できたこと、また、弱い所が明確になり、進むべき道も見えてきたようにも思える第三者評価であったと思います。

アンケートの協力をお願いしたご家族の皆さんには、どうもありがとうございました。評価項目内容の公開の後も、ご意見、ご要望がありましたら、保育園にお寄せください。

まだまだこれから、いろいろな意味で変わっていく「土と愛子供の家保育所」でありたいと思っています。今回の評価やご家族の皆さんの意見を受けて、前進していけるように努めたいと思います。

土と愛子供の家保育所
園長 村木 みつえ

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり